

熊本県人口ビジョン（令和3年(2021年)3月改訂版）【概要】

I 人口の現状分析

2019年の人口 174.8万人

1998年を境に人口減少
3人に1人が高齢者
(総人口比31.1%)

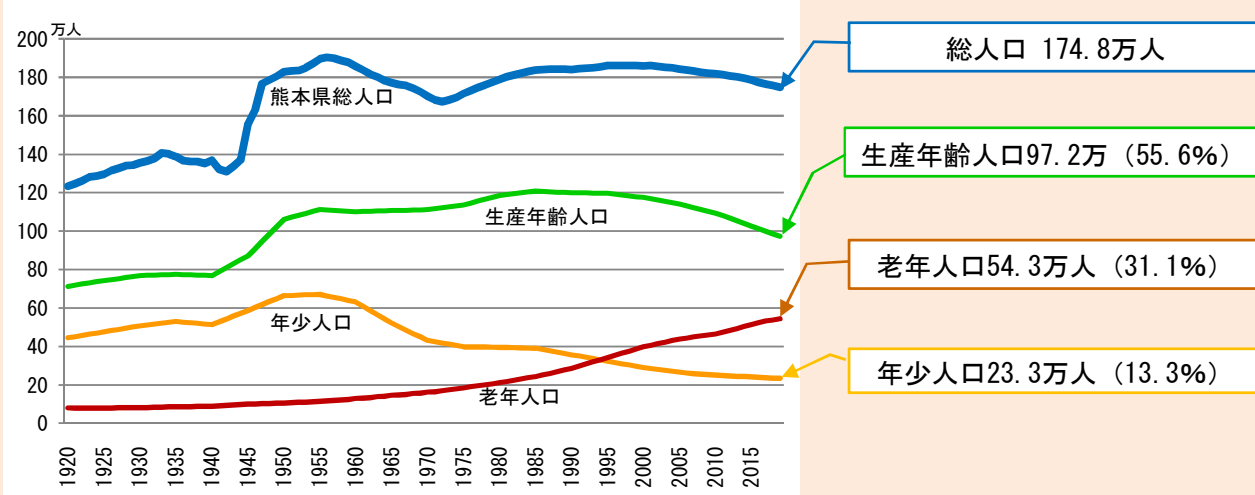
①自然増減 ▲8,365人

- 合計特殊出生率 1.60(全国 1.36) ⇒ 2005年(1.46)から上昇も人口置換水準(2.07)に及ばず
- 初婚年齢 男30.6歳、女29.3歳 ⇒ 40年前に比べ約4歳上昇
- 母親の第1子出生時年齢 30.0歳 ⇒ 20年前に比べ約3歳上昇

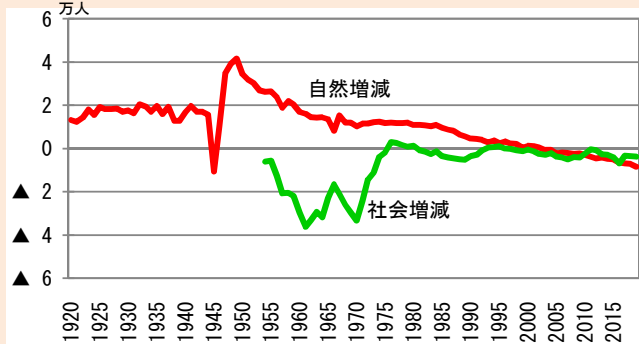
②社会増減 ▲3,900人

- 転出超過先 東京圏2,154人、福岡県1,304人、関西627人等 ⇒ 転出超過の半数が東京圏
- 転出超過の主な年齢層 15歳から24歳3,663人 ⇒ 転出超過は若年層に集中
- 県内高校卒業者の県外就職率 38.7% ⇒ 全国第6位の県外流出
- 県内大学卒業者の県外就職率 56.7% ⇒ 大学生の約6割が県外へ

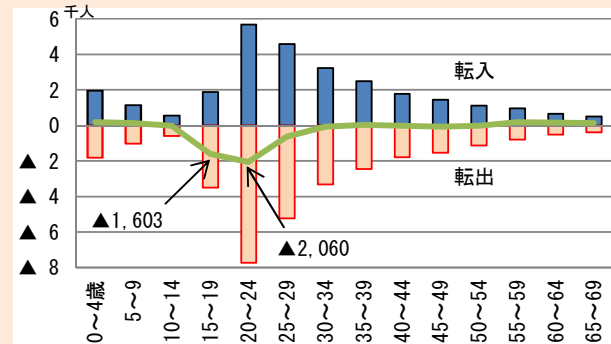
年齢3区分別人口の推移



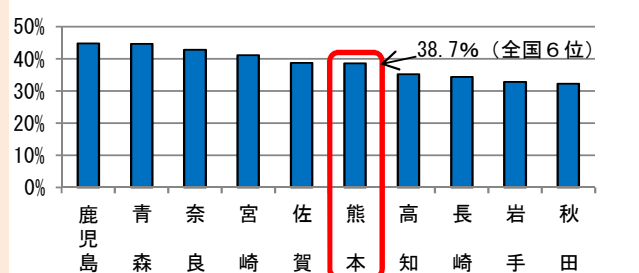
自然増減、社会増減の推移



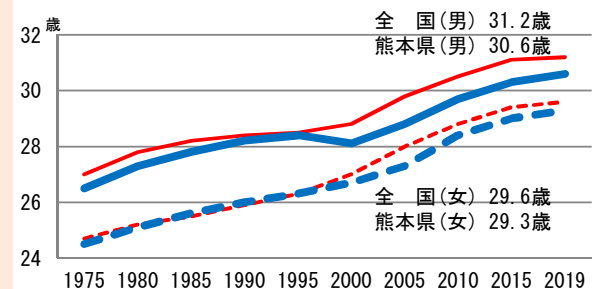
年齢階級別人口移動の状況 (2019年)



県内高校卒業者の県外就職率 (上位10県・2019年)



平均初婚年齢の推移



II 人口の将来展望

2060年の人口 141.1万人
(改訂前144.4万人)

今回の改訂内容

・数値の時点更新
平成22年(2010年)国勢調査結果等⇒平成27年(2015年)国勢調査結果等

このまま何も対策を講じなければ、**2060年の人口は124.3万人まで減少**

(国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計準拠)

【人口減少の影響】

- ◇生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- ◇担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難
- ◇老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増
- ◇地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

めざすべき将来の方向

- 県民が夢と誇りを持ち安心して暮らし続ける熊本の創造
- 熊本に活力を生む産業の復活・発展と、魅力ある雇用の創出
- 熊本への人の流れの加速化、つながりの構築
- 新しい時代の流れと多様な人材の活躍による熊本の発展の加速化と魅力の向上

【将来展望の仮定】

- ◆合計特殊出生率 **2030年 2.0**
(出産に関する希望の実現)
- 2040年 2.1**
(出産に関する理想の実現)
- ◆社会減 **2023年までに1/2に縮小**
その後、均衡

【将来展望】

- ◆2060年の人口 141.1万人
(改訂前144.4万人)
- ◆長期的には2080年頃から
130万人弱程度で概ね安定

熊本県総人口長期推計と将来展望

